



TITLE:

第40回 日本泌尿器科学会中部総会 ミ=シンポジウム 「前立腺肥大症 にたいする新しい治療法」

AUTHOR(S):

大石, 賢二; 安本, 亮二

CITATION:

大石, 賢二 ...[et al]. 第40回 日本泌尿器科学会中部総会 ミ=シンポジウム
「前立腺肥大症にたいする新しい治療法」. 泌尿器科紀要 1991, 37(11):
1421-1419

ISSUE DATE:

1991-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117380>

RIGHT:

第40回 日本泌尿器科学会中部総会 ミニシンポジウム 「前立腺肥大症にたいする新しい治療法」

京都大学医学部泌尿器科学教室（主任：吉田 修教授）

大 石 賢 二

大阪市立大学医学部泌尿器科学教室（主任：前川正信教授）

安 本 亮 二

NEW TREATMENT MODALITIES FOR BENIGN PROSTATIC HYPERPLASIA

司 会 の こ と ば

高齢化社会が進行する中で、高齢男性の疾患である前立腺肥大症は著しく増加している。1880年代から始まった開放手術療法は、最近では比較的安全で確立された方法となった。また、開放手術よりも非侵襲的であるとされる TUR-P が普及し、今日では、ほとんどの手術症例が TUR-P で治療されている。しかし患者が高齢であり、いろいろな合併症のために、開放手術や TUR-P が困難な症例も少なくない。本来良性疾患である前立腺肥大症にたいして非手術的治療法の開発が望まれる由縁である。

新しい前立腺肥大症の保存的治療法として、種々の抗アンドロゲン剤、温熱療法、バルーンによる尿道拡張術、尿道内ステントなどが臨床応用されてきている。本シンポジウムでは、これらの治療法を紹介し、適応と成績と限界について討論した。

さまざまな背景と、いろいろな病期の前立腺肥大症患者の治療の目的は、生活の質をも含めた治療成績の向上である。今後、新しい治療法が、前立腺肥大症に対する非侵襲的治療法として、どのように寄与して行くかは未知数である。

したがって、今回前立腺肥大症の新しい治療法に関するミニシンポジウムがもたれ、その全体像を示し得たことは会員各位にとっても有意義なことであり、本ミニシンポジウムを企画された前川正信会長に敬意を表する次第である。

(Received on April 9, 1991)
(Accepted on April 30, 1991)